

この部分は著作権の関係で公開できません。

受験 番号

この部分は著作権の関係で公開できません。

この部分は著作権の関係で公開できません。

(菅野仁『友だち幻想』ちくまプリマー新書、二〇〇八年、一二三〜一二九頁より。

本文の一部を変更して出題している。)

問一 傍線部(A)「ブント」、(B)「シンミツ」、(C)「ナれて」、(D)「インショウ」、(E)「ジシン」のカタカナをそれぞれ漢字に改めなさい。

問二 傍線部(a)「業績」、(b)「頼」、(c)「戸惑」、(d)「保」、(e)「過剰」の読み方をそれぞれひらがなで答えなさい。

問三 二重傍線部「自分のことを百パーセント丸ごと受け入れてくれる人が」の述語にあたる文節をそのまま抜き出して答えなさい。

問四 傍線部①「自分たちと同じ属性を帯びる集団」とは、具体的にはどういう集団のことをいうのか。本文の言葉を用いながら簡潔に説明しなさい。

問五 段落①・②の内容を次のようにまとめるとき、に当てはまる最も適切な言葉を、本文中から三字で抜き出して書きなさい。

高校生ぐらいまでは自分と同質の小さな集団のなかで生活していることが多いのに対し、社会に出ると、自分とは人たちと関係を作っていかなければならない。

問六 傍線部②「自分のなかに異質なものを取り込めるようなある種の構え」というものが、自分の中にどうしても必要」とあるが、それでは筆者は、そのような「構え」を身に付けるためにはどのようなことを意識すれば良いと考えているか。筆者の考えが最もよく分かる段落番号を①〜⑯の中から選んで答えなさい。

問七 段落7の空欄Xには次の四つの文が入る。正しい順序に並べたとき、二番目に来るものをア〜エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア ある程度辛抱強さがないと、どのみち人づきあいはうまくいかないものなのです。

イ さらにいえば、フィーリング共有性を重視してつながった関係の友だちでも、やはりその中にもフィーリングの違いが出てくることがあると思います。

ウ ちよつとでも違うと、「あ、この人違う」となって、関係を保つ努力を放棄してはい、人と関係を作る力もつきません。

エ でもそれはそれとして、また違った形でフィーリングのつなぎ方をより深めていくきっかけとしてお互い認め合うべきです。

問八 傍線部③「信頼できる他者」とはどういう人のことをいうのか。本文の言葉を用いて説明しなさい。

問九 空欄Yに入る最も適当な接続詞を次のア〜オから一つ選んで記号で答えなさい。

ア かつ イ しかし ウ したがって エ ただし オ つまり

問十 傍線部④「付き合っても、何かさびしい」と感じるのはなぜか。本文に即して説明しなさい。

問十一 空欄Zに入る最も適当な語句を次のア〜オから一つ選んで記号で答えなさい。

ア 違和感 イ 共有感 ウ 信頼感 エ 同質感 オ 連帯感

問十二 傍線部⑤「そういうもの」とはどういうことか。本文中から二十五字以内で抜き出して書きなさい。